

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

極秘

49

昭和十五年九月
 師團長會議席上



師團長訓示



井關部隊本部調製
 笠原部隊本部拔萃

360



0394



茲ニ本職着任早々諸官ヲ會同シテ其ノ壯容ニ接シ親シク所懐ヲ開陳スル
 機會ヲ得タルハ洵ニ欣快トスル所ナリ

惟フニ諸官ハ克ク上司ノ意圖ヲ體シ聖戰目的貫遂ニ將又部隊ノ練成軍紀
 ノ振作等ニ邁進シ日夜精勵着々其ノ成果ヲ收メツ、アルハ寔ニ同慶ノ至リ

ナルト共ニ深ク其ノ勞ヲ多トスル所ナリ然レドモ今ヤ帝國內外ノ情勢ハ急速
 ナル事變ノ處理ト國防國家ノ建設等多事多難ニシテ一日ノ偷安ヲ許サズ

師團ノ責益々重且大ヲ加ヘツ、アリテ更ニ諸官ノ奮勵努力カニ俟ツモ寔ニ多
 シ

此ノ機ニ於テ本職菲才ノ身ヲ以テ武徳高キ前任師團長ノ跡ヲ踏襲シ重責ヲ
 全ラセンカ爲茲ニ聊カ所懐ヲ披瀝シ以テ諸官ニ要望スル所アラントス

一、軍紀風紀ニ就テ

師團ハ出征茲ニ一年有半近時漸ク戰場氣分ニ墮セントスルノ兆アリテ

一層軍紀風紀ノ緊縮ヲ要スルコト切ナルモノアリ諸官ハ宜シク自隊ノ

現況ヲ省ミ嚴ニ部下ヲ戒メ特ニ森嚴ナル軍紀風紀ノ確立六軍ノ成立

ハ許ヨリ聖戰遂行ノ爲ニモ緊要不可缺ナル所以ヲ益々強調シ率
先垂範眞ニ骨肉ノ至情ヲ以テ部下ヲ遇スルト共ニ徒ニ姑息ノ愛ニ溺
ル、コト無ク信賞必罰禍因ヲ萌芽、裡ニ艾除シ益々軍紀風紀ヲ振作
シ惡質的犯罪ノ絶滅ヲ期スベシ
尚敬禮ノ勵行ハ軍紀ノ確立上下和親一致ノ要道ナルニ鑑ミ益々之ガ廣行
ヲ嚴格ナラシムルヲ要ス

二、團結ノ強化ニ就テ

師團ハ創設茲三二年有半克ク彈雨ノ下鞏固ナル團結ヲ以テ遺憾ナク
威武ヲ宣揚セリ。然レドモ屢次ノ補充交代ニ依リ將校以下ノ人員ノ
移動頻繁ナリシノミナラズ師團員荷、任愈々重大ヲ加フルヲ以テ諸
官ハ部下ヲシテ上下相信ジ特ニ下ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ上ノ信
頼ニ背カガラシメ眞ニ上下ノ信頼ヲ紐帶トスル鐵石ノ團結ニ罅隙ナカ
ラシムル如ク指導シ以テ愈々隊長ヲ中核トスル脈絡アル團結ヲ強化シ
師團ノ戦力充實ニ遺憾ナキヲ期スベシ、

三、上下意志ノ疎通ニ就テ

兵戰ノ事タルヤ一途ノ方策ノ下ニ全カヲ統合發揮シテ初メテ其ノ成
果ヲ大ナラシメ得ルハ諸官周知ノ事實ニシテ上下ノ意志疎通ハ實ニ
之が要道タリ而シテ之が爲ニ上下相互虚心坦懷六的確ナル意
志ヲ明示シ下ハ率直坦白ニ己ノ全貌ヲ呈示シテ上ヲシテ己ノ實情
ヲ知ラシメ上ハ亦下ノ機微ノ點ニ至ル迄其ノ真情ヲ把握スルヲ要ス
而シテ若シ研究論議ヲ要スルモノアラバ之ヲ檢討シ餘ス所無カラシ
ムルト共ニ事一度決セラル、ヤ自我ヲ滅シ衆心ヲシテ之ニ歸一セシムル
コト肝要ナリ諸官ハ部下指導ニ際シ敵上ノ趣旨ヲ體シ眞ニ上下渾然
一體明朗ナル人和ヲ結成スルヲ要ス

四、積極的討伐ノ實施ニ就テ

治安確立ノ爲ニ敵武力ノ破摧ヲ先決トシ師團刻下ノ情勢上速ニ
敵中央直系軍及共產軍ヲ潰滅スルハ最緊要事ニシテ彼ノ小成ニ安
ンジ單ニ敵ヲ擊退シ或ハ一地ヲ固守シ得タルヲ以テ事成レリトナスガ
如キハ執ラサル所ナリ而シテ諸官ハ部下ヲシテ分散配置ハ決シテ
守勢的ノモノニ非ズンテ退避遊撃戰ヲ信條トスル敵ヲ捕捉擊滅ス

ル爲ノ唯一ノ攻勢配置ヲ告銘セシメ諸官自ラ計畫實施スル外部
下ヲシテ常ニ潑刺タル企圖心ト旺盛ナル氣魄トヲ以テ分散セル據點ヲ
巧ニ利用シ積極不斷ノ討伐ヲ實施セシメ敵武力ノ迅速ナル潰滅ヲ
期スルヲ要ス

五、教育訓練ニ就テ

教育訓練ハ戦力培養ノ根基ニシテ師團ハ目下教育訓練ニ最モ
不利不便ナル分散配置ニ在リ且警備討伐及資材ノ不備不足等
幾多ノ障碍アルハ之ヲ認ムルモ之ガ爲教育訓練ノ不徹底ハ許サ
レザル所ナリ諸官ハ自ラ屢々現地ニ臨ミ現状ニ即スル指導ヲ行フ
ト共ニ部下ヲシテ凡有機會ヲ捕捉スルノ外萬難ヲ排シ進ミテ機
會ヲ作爲シ創意工夫勞ヲ厭ハズ反覆教育訓練ヲ實施セシメ
且教へ且戰フ、眞義ニ透徹セシムルヲ要ス
而シテ師團目下ノ急務ハ幹部特ニ下級幹部ノ能力向上就中旺
盛ナル精神力ノ涵養ニ在リ之カ指導ノ爲ニ大隊長及聯大隊本部
附諸官ヲ一層有效適切ニ活躍セシムルコト肝要トス

六、兵器ニ就テ

今次ノ軍備充實計畫ニ伴フ國軍兵器ハ其ノ裝備ノ複雜化ト數量ノ尠大化ト共ニ建軍以來未曾有ノモノニシテ現有兵器ヲ尊重愛護シ之ガ整備保續ニ努ムルノ要寔ニ切ナルモノアリ然ルニ師團ハ近時主要兵器ノ亡失毀損稍多キハ遺憾トスル所ナリ諸官ハ一層兵器尊重心ヲ向上セシムルト共ニ幹部ノ適切ナル指導監督ヲ督勵シ兵器ノ亡失毀損ヲ絶無ナラシムル如ク教育スルヲ要ス

七、經理ニ就テ

曠古ノ國策遂行ノ途上ニアル國內財政經濟ノ狀態ハ經費及資材ノ節用ニ對スル要望洵ニ切ナルモノアリ諸官ハ宜シク思フ茲ニ致シ冗費ヲ省キ經費ノ重熟的使用ニ徹底スルト共ニ追送資材ノ愛護節用ニ努ム特ニ現地自活ニ透徹シ以テ前項要望ニ對シ積極的ニ協力センコトヲ切望ス又經理軍紀ノ緊肅ニ関シテハ從來屢々訓示セラレシ處ナルニ拘ラズ更ニ之ガ刷新ヲ強調セガルベカラザル事態ノ發生ヲ見シハ洵ニ遺憾トスル處ナリ諸官ハ克ク部下ノ指導監督ヲ適切ニシ

0399

以テ此ノ種不祥事ノ根絶ヲ期スベシ

八、人衛生ニ就テ

兵員ノ保育ハ諸官ノ努力ニ依リ概不順調ニ實施セラレアルヲ認ムル
モ駐留状態ニ入ルニ從ヒ結核性疾患漸増ノ傾向ニアリ

國民体位ノ底下ニ伴フ入隊兵員体カノ劣弱ナルモノアルニ加ヘ繁劇
ナル討伐警備勤務等ニ服サザルベカラザルヲ以テ保育上多大ノ困難
アリト雖訓練即チ保育ノ精神ニ則リ倥偬ノ間ト雖モ保育ノ十全ヲ
期シ國軍兵力減耗ノ主因タル結核性疾患ノ豫防撲滅ヲ圖ルト共ニ
益々人的戦力ノ向上ニ努力ノ以テ戦力ヲ遺憾ナク發揮セシムルヲ要ス

九、馬事ニ就テ

師團馬匹ノ現況ハ諸官ノ努力ニ依リ逐次向上ノ途ヲ辿リツ、アルモ
各隊ノ實情ニ鑑ミ更ニ馬事教育ノ振作興隆ニ努メ特ニ駐軍間ノ飼
養管理改善ニ重點ヲ指向シ榮養ノ向上防疫ノ徹底ヲ圖ルト共ニ地方
畜産資源ヲ培養確保シ以テ戦力ノ增强民衆ノ福利増進ニ寄與セン
コトヲ期スベシ

之ヲ要スルニ師團ハ晉南ノ要地ヲ確保シテ北支ニ對スル敵策謀ノ根源ヲ
覆滅セルモ敵ノ抗戰意志ハ毫モ消磨坐折セザルノミナラズ國際政局ノ變
轉逆踏シ難ク聖戰ノ速ナル完遂ヲ要スルコト愈々切ナルモハアリ此ノ
時局重大ノ秋ニ方リ本職當師團統率ノ榮任ニ就ク是ニ其ノ責重大ナル
ナルヲ痛感スルト共ニ諸官ノ奮勵努力ニ依リ此ノ重責ヲ完シテ聖
明ニ應ヘ奉ルト共ニ下統後ノ負托ニ副ハシコトヲ期ス諸官夫レ克ク本職
ノ意ヲ體シ萬難ヲ克復シ一意聖戰目的ノ完遂ニ邁進セシコトヲ期スヤシ
細部ハ參謀長ヲシテ口演セシム

昭和十五年九月六日

第三十六師團長

井關

儀

0401